

学校教育目標	志高く「凜として」生きていく生徒の育成
育成を目指す資質・能力	「探究」をキーワードに、「学びに向かう力、人間性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の3観点をバランスよく育成することを目指す。

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・いずれの教科とも平均正答率は全国平均を上回っているが、一部(数学の二等分線の作図、理科の光の性質など)の問題において、全国正答率を下回る問題がある。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 生徒質問紙においては、概ね全国のポイントより高くなっているが、「授業で学習したことが将来に役立つと思いますか」などの質問項目では、全国平均を下回る設問がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・コロナ禍の中、グループ学習を制限した影響もあり、話し合い活動の内容の充実が今後の課題である。 ・自分の考えを全体の前で表現できる生徒が少ない。 ・学力の低い生徒の学習に対する意欲の低下が見られる。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「上中スタンダード」の学習規律、学習環境については、学習委員会の活動等を通して生徒が意識して実践できている。 ・各教科において、日常生活に関する題材の活用や、目的を明確にした話し合い活動の実践を通して、探究及び対話的な学びを促す指導方法の工夫改善につなげるよう取り組んでいる。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・朝自習や家庭学習等、中学校問題データベース等を活用し、基礎基本の定着を図る取組を実施している。 ・個人のニーズに応えるために、定期考査前の昼休み等に質問教室等、個別指導を行っている。 ・自分の考えを表現できるよう、月に一回程度、人間関係づくりプログラムを実施している。	

学力に関する達成指標

- ・各種学力調査における全ての教科で平均点や正答率が全国平均以上や県平均以上を目指す。
- ・定期テスト等で正答率80%以上の生徒の割合35%以上、40%未満の生徒の割合を12%以下を目指す。
- ・「意見交流をすることによって、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた」生徒90%以上を目指す。

